

羅 針 盤			方 策	点検・評価		達成度	達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価
評 価 対 象	評 価 項 目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等			
Ⅰ 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	黒門キャリアプランについて満足していると答える生徒が85%以上である。	文理、科目選択の説明会や定期的に行われる面談を通して、生徒・保護者へ説明し、本校の教育方針の理解を深める。	A	A	A	全職員で指導するための協力体制があり、面談等を活用して生徒の適性を踏まえた文理や科目選択の指導が行えている。来年度、コース制がなくなりより柔軟なクラス編成と科目選択が行えるようになっていく。	学校の目指す方向性が明確で、特色ある教育活動が展開されている。
		学習外の活動を主体的に行えたと答える生徒が85%以上である。	特別活動、部活動、ボランティア活動を生徒主体で活動できるように計画し、生徒の活躍の場を設ける。	A	A	A	担当となる職員が生徒が活動しやすいように環境を整備し、生徒が主体となって特別活動、部活動、ボランティア等の活動が行われている。	探究的な学びを軸にした教育方針が一貫しており、生徒の主体性を育てようとする姿勢が評価できる。
		総合的な探究の時間（課題解決型インターンシップやRQ型課題解決などの探究活動）に主体的に取り組んだと答える生徒が90%以上である。	探究のサイクルを繰り返し実践する過程を通じて、段階的に課題解決力を育成する。特に課題発見力の育成を重視し、生徒が自らの課題を自らの力で設定できるように、生徒に寄り添う指導やその指導体制を充実させていく。	A	A	A	探究部が中心となってカリキュラムや教材を策定し、学年団の全教職員と連携を図ることで、生徒が探究活動の意義や目的を理解し、主体的に取り組める環境を構築している。今年度は群馬大学やベネッセ教育総研と共同研究する中で、本校の探究活動の推進体制が円滑に機能しており、生徒の資質・能力の育成に寄与していることが明確になった。今後は探究活動の質的向上と深化に取り組んでいきたい。	部活動や探究活動を含む学習外の活動は、生涯学習社会を見据えた「学び」の理解を深める上で重要であり、学びの意味や価値を広げる指導の充実が期待される。
Ⅱ 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	学習に主体的に取り組めっていると答える生徒が80%以上である。	シラバスを活用し、計画的に学習を進めると同時に、生徒の知的的好奇心や探究心を喚起する授業、生徒が「自己決定」「対話・交流」「試行錯誤」する授業を目指す。	A	B	B	3つの場面を取り入れるための研修や3つの場面を意識した授業の公開を行い、職員の研修を行った。生徒は授業内で主体的に活動する場面がみられた。学習内容に興味を持ち、学習改善する部分までは至らなかったようである。	授業においてICTや探究的手法が積極的に取り入れられ、生徒が主体的に学ぶ姿が見られる。
	3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	進路目標に応じた学力を身につけたと自己評価している生徒が80%以上である。	サクセスシステムの取組（模擬試験、平日・夏期休業中の課外補習、黒門道場等）を着実に行うとともに、Classiの課題配信等を活用して個々の生徒に最適化された学習手段を提供し、生徒の進路実現を可能にする学力を身につけさせる。	A	B	B	今年度はClassiの活用の仕方を工夫し、適切なタイミングで個別最適化された課題を与えることができた。また、生徒が主体的に自分のペースで学習しやすいよう、自主学習会の実施やスタディーホール等の環境整備を行った。来年度も引き続き、生徒が自主的に取り組める教材と、学習効果が実感できるような課外補習のあり方について検討する。	「3つの場面」など共通の枠組みを用いた授業改善の取組は評価できる。 生徒の学力向上と探究活動のバランスを今後も意識してほしい。
Ⅲ 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	生活指導係会議を毎週行い、全学年の生徒情報を共有し、組織的・継続的・先手を打つ生徒指導を目指す。	全職員で全生徒を見る、情報共有の徹底、先手を打つ生徒指導を合い言葉に所属学年、分掌を超えて全職員で生徒指導にあたる。	A	—	A	生活係会議、教育相談係会議、学年会議、企画会議、職員会議、いじめ防止対策委員会等を定期的に行うことで生徒情報を即座に共有でき、全職員で先手を打つ生徒指導ができていくので、平時より備えていく。	教職員が連携し、生徒一人一人に寄り添った丁寧な生徒指導が行われている。
	5 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていますか。	「学校は、いじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っている」と認識している生徒が80%以上である。	未然防止指導、再発防止指導として「いじめは、人の尊厳にかかわることで絶対に許されない」という強い認識のもと、法令に基づく組織的対応を行う。	A	B	B	法令に基づく組織的対応ができていくので、今後も生徒のみならず、保護者、教職員も「いじめは相手の人間性とその尊厳を踏みしめる『人権侵害行為』である（生徒指導提要P121）」ことを強く認識し、未然防止指導、早期発見、再発防止指導の徹底を継続する。	生徒が安心して学校生活を送れる環境づくりに努めている点が評価できる。
	6 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	自転車用ヘルメット着用モデル校として、命を守る必要不可欠な物として認識し、現在99%の着用率から100%の着用率を目指す。 欠席率が2%以下である。	毎朝行っている職員による登校指導のみならず、生徒主体の活動として風紀委員会、交通委員会の活動内容に朝の挨拶運動、ヘルメット着用啓発活動、交通安全運動を盛り込み実施する。 連続して欠席となった生徒については、生徒、保護者との連絡を密に行う。また、授業や部活動、委員会活動等を通して自己肯定感が高まる活動や声かけを行う。	A	A	A	交通事故は命に直結することへの理解を深めるため毎朝の登校指導のみならず、風紀委員会、交通委員会の活動内容に朝の挨拶運動、ヘルメット着用キャンペーンを盛り込み生徒主体で活動できた。	交通安全指導や防災意識の向上に向けた取組が継続的に行われている。
Ⅳ 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	7 計画的な指導を行っていますか。	ドリームプランの進路指導やキャリア教育の各企画が自分の進路を考えるために役立つと思う生徒が80%以上である。	進路選択に際し、生徒にドリームプランの企画（オープンキャンパスへの参加、大学模擬講義、進路講演会等）の意義を十分に理解させるとともに、生徒が自分の進路について主体的に考え、具体的な方向性を持つような取組を随時展開する。	A	A	A	生徒が自身の進路について主体的に考え、具体的な方向性を持てるよう、適切なタイミングで進路講演会、大学模擬授業、大学見学会や進路希望別の説明会を実施した。調査範囲や長期休業の課題内容を時間的に余裕を持って発信し、自主的に学習できる時間を確保した。生徒は黒門手帳を活用し、日々の生活を計画的に送れるよう工夫した。担任をはじめとする教員による定期的な面談や助言も有効に機能している。	進路実績だけでなく、生徒が自分の将来を主体的に考える支援がなされている点が評価できる。
	8 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	進路目標に応じた学力を身につけたと自己評価している生徒が80%以上である。	個々の生徒に関係する全教職員が、進路実現のための共通認識を持つとともに、面談等を通じて保護者とも情報を共有し、授業や課外補習、自主的な学習活動等に主体的・計画的に取り組めるよう目的意識を醸成する。	A	B	B	進路実現に向けての最終段階（受験期）では、面接練習や小論文・プレゼンテーション等の指導で、全教員が学年を超えて個別指導にあたった。生徒も期待に応えて粘り強く取り組んだ。しかしながら多様化する入試形態により、個別指導のための教員の負担が年々大きくなっている。いかに効果的かつ効率的に個別指導を実施できるかが来年度以降に向けての課題である。	多様な進路選択に対応した情報提供や個別支援を、今後も継続してほしい。 現在の受験体制のもとで生徒や保護者等の『学習に対する認識』を大きく転換するのは難しいが、『学び』とは何かという課題については、先生方も含めて常に考える姿勢でいて欲しい。
Ⅴ 開かれた学校づくりに努めていますか。	9 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	ホームページで学校の様子や生徒の様子がよくわかると考える保護者が80%以上である。	ホームページの富高NEWSに行事等の写真を掲載し、タイムリーな情報発信を心がける。	A	A	A	ホームページの更新は、関係各位の配慮と協力により、今年度はタイムリーに行うことができた。保護者や地域の方へのPRになるところなので、来年度も定期的かつ組織的に迅速に更新し、学校の情報を提供していきたい。	ホームページや学校行事を通じた情報発信が改善され、学校の取組が見えやすくなっている。 地域や外部機関との連携が教育活動に生かされている。
Ⅵ 教育デジタル化に努めていますか。	10 ICTを活用した指導を行っていますか。	ICT機器を学習に効果的に使用できている職員を80%以上にする。	校内研修で授業方法の共有を図る。グーグルドライブ内に共有フォルダを作成し、生徒・教員間のファイルのやり取りをスムーズにする。また、今年度導入したClassiを活用した学習指導を取り入れる。	A	A	A	多くの授業でICTが活用されている。ICTを活用し、生徒同士の意見を収集してグループで討論する場面がみられた。今年度導入した「Classi」を活用して定期的に学習指導や情報提供を行うことができた。継続して「Classi」の活用方法を検討したい。	ICTが授業や情報共有に効果的に活用されており、教育の質向上につながっている。 Classi等のツール活用が進んでいる点は高く評価できる。
	11 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	職員への紙での資料配付を昨年度比で80%までにする。	kinakoでの情報共有を図り、配付資料を閲覧できるようにする。	A	—	A	昨年度より情報の重要性・緊急性を踏まえ効果的に情報共有ができていく。朝会の時間短縮に繋がり、職員の業務効率改善に繋がっている。	生成AIがあることを前提とした指導をする必要がある。
Ⅶ 特別な支援を要する生徒への適切な対応を行っていますか。	12 学校への適応等その他で悩んでいる生徒、特別な支援を要する生徒に適切な対応をしていますか。	教職員が、悩みを抱える生徒、及び特別な支援を要する生徒及びその実態を90%以上把握している。また、把握した生徒については、対象生徒全員（100%）に対して適切な対応に取り組んでいる。	生活アンケート（年3回実施）の質問項目/質問内容を、生徒が学校や教職員に悩み等を訴えやすいよう且つ学校や教職員が的確に生徒の悩みや状況を把握できるよう継続して見直す。また、SCや通級など外部機関との連携を通して、必要に応じて、より適切な対応が取ることが可能な体制及び態勢の見直しに取り組んでいく。	A	B	A	概ね達成できたと考えられる。学校評価アンケートにおいて生徒及び保護者からの評価がやや低い理由については、直接的な指導支援が必要ない生徒や保護者（例：悩みがなく、相談の必要がない 等々）にとっては、本校及び本校職員の取り組みが、必ずしも十分に認識されていない可能性が考えられる。本校の取組を生徒・保護者に周知する方策を考える必要があると考える。	心のケアや相談体制について、今後さらに充実させていくことが望ましい。 特別な支援を要する生徒の数もさらに増加することが予想される。そうした生徒への個別の対応等について、体制も含めて検討する必要があると感じる。